

# 七夕の星に願いを込めて



▲ 園路をそぞろ歩さずる市民 ▶

▶ 灯ろうなどでライトアップされた会場



淀川三川合流域の魅力を実行委員会や市観光協会主催で約2200人の市民が来場。ジャズ演奏やダンスなどのステージ発表、4力所の工場見学やライトアップなど、盛りだくさんのイベントが行われました。また会場内に東日本大震災の被災者のために募金箱を設置し、支援を募



## 多彩なイベント 2200人楽しむ

りました。園路には、幼稚園・保育園児などが作った笹飾りを設置。訪れた市民が短冊に願いをつづるコーナーを設け、友好都市の宝鷲市(中国)、マイン村(アメリカ)から届いた短冊も飾りました。夕暮れには、園路に設置した灯ろうや流れ星をイメージして並べた竹筒でライトアップするなど、温かな灯りが訪れた人の心を和ませました。



ササに短冊を結ぶ親子連れ

# まちの話題

このページでは、市民の皆さんの活躍やまちの話題を紹介しています。身近な話題や広報誌についての意見を、秘書広報課までお寄せください。

## 不思議な感触 スライムで遊ぼう!

科学の面白さについて学ぶ講座「スライムで遊ぼう」が8月20日、美濃山コミュニティセンターで開かれました。親子連れ40人が自由自在に形を変えるスライムの魅力に引き込まれました。同センターが主催。実験を通じて、理科の勉強や世の中の出来事に興味を持つきっかけにと、NPO法人ものづくりキッズ基金理事長の三島ナヲキさん(36)が講師を務め、スライムの性質や作り方などを説明しました。

まず、色を付けた水にアロマオイルで香り付けし、洗濯のりを加えて割りほしでかき混ぜます。さらに、水に溶かしたホウ砂を入れてすばやくかき混ぜると、ゼリー状のスライムの出来上がり。子どもたちは机に広げたり、ちぎったり、スライムの感触や香りを楽しみました。

親子で参加した砂原光陽くん(7)は「気持ちいい感触で、楽しかった。また家でも作ってみたい」とうれしそうでした。



スライムを作る親子連れ

## 用水路で発見! ダルマガエル

府絶滅寸前種 野外学習の児童3人



用水路で生き物を探す参加者と、見つかったダルマガエル(円内)

京都府で絶滅寸前種に指定されている「ダルマガエル」が、八幡市川口の用水路で見つかりました。川口コミュニティセンターが7月30日に開いた講座「水辺の生き物」に参加した児童3人が発見。講師に招いた環境生物研究会の中川宗孝会長が確認したところダルマガエルだと分かりました。

見つかったダルマガエルは体長約3cm。緑褐色の背中に黒色の独立した斑点模様特徴のカエルで、近年、数がかなり減ってきているといえます。同研究会によると、府内で生息が確認できたのは城陽市と亀岡市の一部だけで、中川さんは「今まで発見したのは土のままの用水路だったが、まさか人工の物で整備された場所で見つかる」と驚いていました。

## 学びをサポート 「放課後学習クラブ」

児童の自主的な学習を支援する「放課後学習クラブ」の対象校が今年度、全小学校に拡充されました。同クラブは5、6年生を対象に、週2日の各2時間開催。全校で希望者379人が登録しました。土曜日は漢字検定、数学検定合格に向けたチャレンジ学習に励んでいます。水曜日は算数や国語のプリント学習です。問題用紙に印字されたバーコードをパソコンで読み取ると、解答が印刷され、児童自ら答え

合わせが出来ます。分からない問題は、元教師などの学習アドバイザーがサポートします。今年度から漢字パズルの学習も取り入れるなど学習内容を見直した結果、途中で退出する児童も少なくなり、学習時間も昨年度より伸びています。クラブは夏休み中も行われ、8月10日、橋本小では30人の児童が参加。学習アドバイザーの支援を受けながら、算数などの問題に取り組んでいました。



自主的に放課後学習クラブで学ぶ児童